メイン会場(小ホール：450名)	サブ会場(4F、第3・4集会室：201名)	第1集会室(4F：90名)	第2集会室(4F：111名)	601会議室(6F：78名)	602会議室(6F：90名)	603会議室(6F：90名)	604会議室(6F：78名)
受付開始：9：00							
開会式 **09:55-** **大会長講演** **10:00-10:50** 家族療法－温故知新－ 大会長 (中野真也) 司会 （岩田尚大）							
会長講演 **11:00-12:00** 日本家族療法学会に期待すること 会長 (村上雅彦) 司会 （中野真也）							
座談セッション **13:30-15:00** 家族療法の専門性と 家族療法家の責任性 登壇者 （東豊・村上雅彦） 司会 （岩田尚大）	**講演** **13:30-15:00** 家族療法から学んだこと： 家族システム理論、 一般システム理論、DBT, トラウマ インフォームドアプローチ、 サンクチュアリモデルなどにおけ るシステムの広がりと深まり 講師 （遊佐安一郎） コメンテーター／リフレクター （梁田秀麿・福井里江・田中究）	**ミニワークショップ** **13:00-15:00** ジェノグラム入門：その情報の 豊かさに触れてみましょう 講師 （薮垣将）	**書籍販売・休憩所** 11：00 － 18：15	**自主シンポジウム** **13:00-15:00** 公立中学校と児童精神科医師との １５年間の協働関係 （小笹祥子ら）	**自主シンポジウム** **13:00～15:00** スーパーヴィジョンのあり方・話 し方を考えるーあるスーパーヴィ ジョン・グループの模索のプロセ ス (平栗富美子ら)	**一般演題** **13:30-15:00** ○認知科学の視点で考えるPTMF、 インフォームドコンセント、 危害防止原理 (石橋健一) ○親の別居・離婚を経験した 子どものリスク・スクリーニング ― Kids' DOORSの試行実践 (小田切紀子) ○「リフレクティング・チームの 手法を導入した事例検討の意義と その可能性に関する検討－事例提 供者と参加者の質的分析から－」 (須江泰子) 座長：市橋香代	**事例検討** **13:00-14:00** 回復期リハビリテーション病院 リエゾンにおける退院支援の一例 (森未緒・堀込俊郎) 座長：渡辺俊之 **事例検討** **14:10-15:10** 読み書きの困難を持つ児童に、 チーム学校が成し得たことは何か (迎美保・佐藤牧子) 座長：赤津玲子
大会シンポジウム **15:30-18:00** 精神分析と家族療法 シンポジスト （中村伸一・渡辺俊之・ 上別府圭子） 司会 （中野真也） 指定討論 （児島達美）	**講演** **15:30-17:30** 家族療法における 基礎としての複数面接 講師 （吉川悟）	**ミニワークショップ** **15:30-17:30** 思春期・青年期家族への アタッチメント理論に基づく支援 講師 （稲垣綾子）		**一般演題** **15:30～17:00** ○家庭と学校の協働的関係の 再構築についての一考察 (山元彩美・吉川悟) ○家庭内の複数の子どもが問題を 抱える中で機能的な援助システム の形成を志向した一事例 (相楽麻紀・大平厚) ○スクールカウンセラーによる教 員への働きかけに関する一考察 システム論の視点から (久保見篤) 座長：阪幸江	**自主シンポジウム** **15:30-17:30** 精神科診断名を共有することに どれだけの意味があるのか: トラウマインフォームドケア・ PTMF・オープンダイアローグ・ 心理教育などの視点からの問い (伊藤順一郎ら)	**一般演題** **15:30-17:00** ○希死念慮を抱く生徒の 親子関係調整を行った一事例 (西山達二) ○回復期の思春期神経性やせ症 への介入 (村松京香・吉川悟) ○他機関への拒否が改善した事例- 患者の抱える困り感の扱いの有効 性 (寺田日向子・吉川悟) 座長：阿部幸弘	**スーパービジョン・セッション** **15:30-17:00** すれちがう母と子への 個別アプローチ (高橋候輔) スーパーヴァイザー：田中究 **事例検討** **17:10-18:10** 本人が来談困難な状況の発達相談 における家族支援事例 (志田望) 座長：鈴木美砂子
交流会：国際会議室　18:30-							